

C-2 : プレアワード

開催日時・会場 9月20日（木曜日）9:00-10:30 403(4階)

異分野融合・学際研究を生み出す仕組みとURAの役割

異分野融合・学際研究を推進するためには、実際に研究を行う研究者自身がワクワク・ドキドキする研究テーマを異なる背景・分野の研究者間で共有することが重要である。そのような研究テーマを議論する場として、研究者同士がワイワイ・ガヤガヤする交流の場の提供が行われてきたが、場の提供のみでは異分野融合・学際研究がなかなか生まれないといった課題がある。

本セッションでは、異分野融合・学際研究を推進するための各機関における各種取り組みや、必要となるURAの役割を紹介し、異分野融合・学際研究をより確実に生み出すための仕組みとは一体何か、そのためにはURAは何をするべきかについて議論する。

具体的には、以下各大学の取組みと異分野融合・学際研究の成功事例等の紹介を行い、成功要因等を抽出し、異分野融合・学際研究を生み出す仕組みの制度設計やURAの役割について参加者とともに考える。

<電気通信大学>

専攻等の枠を超えた研究グループを構成して研究活動を行う「研究ステーション」、「学術連携交流協定」による組織間の医薬工連携など。

<新潟大学>

異分野連携・融合研究を応援するU-go Grant、U-goサロン、U-goウェブの3つの取組みからなる「U-goプログラム」など。

<京都大学>

学際研究のアイデアが芽吹くための機会・場の創出支援、学際研究のアイデア実現に向けての第一歩を支援する「分野横断プラットフォーム構築事業」、学際研究をURAの伴走によってより発展させる「SPIRITS」、社会課題解決型などの外部資金獲得の支援など。

オーガナイザー



関口 通江 : 電気通信大学・研究戦略統括室・URA(特任助教)

医科大学にて遺伝子研究業務を経て特許事務所にて外国特許業務に従事。2008年より電気通信大学産学官連携センター知的財産部門にて共同研究契約交渉に係る調査研究、知的財産管理、技術移転等に従事。2014年より電気通信大学研究推進センター研究企画室、2017年より同大学研究戦略統括室にてURAとして従事。同大学産学官連携センター知的財産部門を兼務。

講演者

長谷川 佐知子 : 新潟大学・研究企画室・URA

住友商事(株)で10年間、有機化学品貿易等の営業アシスタントを務める。退職後は、英国留学、本田技研工業(株)での新規海外販売プロジェクトを経験。結婚を機に新潟に転居。2009年より新潟大学で大学コンソーシアム活動に従事した後、2012年よりURAIに。外部資金獲得支援のほか、研究推進のための企画運営を担当。

白井 哲哉 : 京都大学・学術研究支援室・URA



2006年岡山大学院自然科学研究科修了 理学博士。2006年京都大学生命科学研究科 特任助手、京都大学人文科学研究所 特定助教を経て、2012年より京都大学学術研究支援室URA。2017年よりプロボストオフィス兼担。研究者時代の専門は、生命科学・生命倫理・科学コミュニケーション・科学技術社会論(STS)・科学技術ガバナンス。学際研究の経験とSTSの知見を活かして、研究現場の環境を改善したい。